

さわがせ

号数 第 3 3 9 号
発行日 令和 5 年 12 月 3 日
発行所 金光教 韃教会
〒 550-0011
大阪市西区阿波座 2-2-10
TEL&FAX 06(6541) 6313
mail: utubo1905@gmail.com



和田安兵衛先生（教祖様から拝領の袴をつけて）

初代韃教会長

和田安兵衛先生八十年祭を迎えて

教会長 鍵山 公 生

本日は初代韃教会長和田安兵衛先生の 80 年の忌日を迎え、皆様と共に先生のご慰霊と感謝の御祭りをお仕えさせていただきます、真に有り難いこととございます。

先生は 17 歳の頃より鬱病に罹り、多くの医師や鍼灸院、あるいは薬という薬をことごとく服用したが効果なく、母（キク）は一人息子ゆえ何とか回復を願いお宮にも繁く足を運びました。しかし一時は収まっても春になると再発し、その上に 20 歳のころ労咳（肺病）を併発し病は重くなるばかりで、松林に仮小屋を建てて養生され、死ぬのを待つばかりという状況でした。



そのころ住吉の浜口村に住む清兵衛の妻、お中という信者に導かれ、白神先生

の布教される広前に母親がお引き寄せいただいたところ先生は、「天地の恩をお解き聞かせになり、天に向かっては日月様と申して御礼拝するけれども、お土地の恩を知る者はない。そればかりか、方角が悪いのよいのお土地に不足を申し、不浄な事や汚らわしいことをしても無礼とは思わぬから、善事の向かって来ないのである。よくお詫びを申して信心するがよろしい」と教えられた。それを母から伝え聞いた先生は深く感じ入り、

「丁度父親に孝行して母親に孝行せぬ様なもので、相済まぬ事であった」と得心し、一心を凝らして信心をさせていただくようになったのがこのお道にご縁をいただいた始めであります。

信仰するようになって3日目に靈驗を頂いて気分が清々しくなり、乗り物でしか行けなかったものが40日程で、2時間以上もかかる道のりを徒歩で参拝でき、80日程で宿年の大病も肺結核も共に全快させていただきました。



和田安兵衛先生40年祭(昭和58年12月3日)

教祖様は「人間は生き通しにはならぬものじゃのう、60か70になると死なねばならぬものじゃから、名を残して死なしてやる。人は一代、名は末代というてのう、人間は死ぬけれど、善いことをしたとか悪いことをしたとかいう名は死ぬものじゃないから、何でも、よい名を残して死になさい」。また「この方も人間じゃから(中略)いつまでも生きられるとはゆかぬ。生き通しとは、後の人が拝んでくれるようになることじゃ」と仰せになっておられます。

教祖様がお隠れになって今年は140年を迎え、現身の姿を隠して後も永世生き通しで、生神金光大神様として、取次の働きを現し続けられ、その御取次を賜った和田安兵衛先生も、金光様の生き方をお手本にして、今も私たちの身の上をお守り下さっておられるのであります。

先生はご自分の難病から救われおかげを受けられましたが、それから10年目にコレラにより3人もの家族を失い、その上子息の死など多くの災難に出会われたのです。そこで先生は気落ちすることなく、また信心を手放すことなく、人生の中で難儀なことはこれで全て済んだのではない、こういうことがこれから先も二度と起こらないとは限らない。後は神様に縋るしか方法がない。これから真の信心をさせていただいてめぐりのお取り祓いを頂きたいと考えたのです。そして家業の乾物商などの仕事を辞め、欲を放してお道の教師になって専心ご用におとり立ていただくとうと決心されたのでした。

先生の家のめぐりは深く、家族に恵まれず、先祖を祭る人もない家になり、滅ばねばならないところでしたが、教会になって、人助けのご用をすると同時に、いつまでも先祖を祭っていただけるお徳をいただきたいと努力をされたのです。そして信心を手放さず来られたために、いついつまでも先生の信心の真によって、幾多の人が助けられ、今も数多くの信奉者より尊ばれ、感謝されることになったのです。

「神になるとは、死して後、いつまでも神と崇められ、信心の徳を受けることじゃ」と仰せられています。世間の人々は人が亡くなって、10年も過ぎると親の命日すら忘れ、慰霊祭など仕えない人がある中で、先生は子孫は絶えてもこのように80年祭という祭典を仕え、先生を称えて集う人々がおられるということは、金光様の御教えをそのままに実行されたからであります。

また教祖様や歴代先生方のように大きな徳や事績を残された方々の尊さは素晴らしいもので、それを正しく伝える人がなかったらどんなに善いことでも忘れ去ってしまいます。そこでその事績やみ教えを次の人に伝えること、また伝える人があるということがどれだけ大切なことかと思えます。

教祖様が素晴らしいみ教えを下さり、多くの人たちがその御取次ぎによりおかげを受けてきましたが、そのころ直信先覚であるお道の信奉者らが、金光様がこの世に在世中はいいが、お隠れになった後、素晴らしい方が居られたといっても、昔話に終わってしまうので、金光様の教えを後の人々に伝え、導くことが大切だということからこのお道が出来、また後々の人々がおかげを受けることがきたのです。その道を伝える人は私たち信奉者なのです。



和田安兵衛先生60年祭(平成15年12月6日)

子供を大切にされる人は多くあり、学問を身に付け、美しい洋服を与え、またご馳走を作り、旅行にも連れて行ったりしますが、それらの品物を作ってくださいるのは天地の神様の働きであることを知らない人がいます。金光様の教えを伝えようとする方はそんなに多くありません。するとせっかく素晴らしい教えがあっても、おかげをいただける神様がおられても忘れ去ってしまったら金光様のご苦勞を無にしてしまいます。

私たちに伝え導いて下された歴代先生の御心を大切に、末の末まで金光様のみ教えを伝え、人の助かるご用にお使いいただきましょう。

和田安兵衛師略歴

- 出生年月日 安政2年3月15日
- 出世 場所 大阪府東成郡住吉村安立町
- 改 名 幼名楠松（通称綿楠、楠さん）20才前後に安兵衛と改名。
- 父 親 和田安右衛門（明治19年8月5日、61歳で帰幽）
- 母 親 和田キク （明治40年3月12日、82歳で帰幽）
- 兄 弟 4人兄弟姉妹の長男、他3名は女性
- 妻 山本ツル （明治19年8月4日、29歳で帰幽）
- 子 女 長女、カネ（重住家に嫁ぐ）
長男 安次郎（大正6年35歳で帰幽）
- 生 業 乾物商、後に綿、豆、米等の相場師
- 御神縁始め 明治9年頃（先生ご自身の口述による）
明治13年3月6日（25歳）白神先生の御祈念帳に記された日付
- 入信の動機 17、8歳の頃気鬱症に罹り、21歳頃労咳（肺結核）が併発し、
平癒を願う。快復後20年間住吉より御礼参拝する。
- 教祖に拝領 明治12年10月、その時お書き下げ2体教祖様から手渡しで頂く。
（その当時書きためておられた四神様の直筆）後に第一世管長様直筆
のお書き下げも頂く。（共に現存）
- 教師 拜命 明治17年12月16日、教師試補拜命（神道管長より）
- 職 級 明治24年5月26日 小講義拜命。その後権中講義。権大講義。
権小教正。昭和18年中教正に昇級。明治29年7月25日、
住吉仮説教所担当教師となる。
- 布 教 入信後住吉の自宅にて家業を営みつつ布教。
（そこで信心を始めた中井師がお道の教師となり、東成教会を開き、
明治29年7月17日～明治40年に東成教会に併合された）
- 鞆 布 教 明治37年7月、大阪市西区鞆下通り2丁目にて専念布教。
- 広前の変遷 明治40年9月、大阪市西区鞆中通り1丁目に移転（4等教会昇進）
後に西区鞆上通り1丁目18番地の大神宮の建物を借り受け、
昭和7年5月に土地、建物を購入。
- 鞆教会認可 明治40年6月3日
- 教会長拜命 明治40年8月15日（52歳）
- 帰 幽 昭和18年12月3日（89歳）

12月3日(日)午前10時30分より
月例祭並びに
初代韃教会長和田安兵衛先生80年祭
祭典後:「和田安兵衛先生の生涯」ビデオ上映

12月

3日(日) 月例祭並びに初代韃教会長
和田安兵衛先生80年祭執行 午前10時30分



9日(土) 月例祭執行 午前10時30分

10日(日) 布教功労者報徳祭 ご本部参拝

15日(金) 信徒共励会 午前10時

23日(土) 越年祭並びに月例霊祭、
大祓式(ひとかた行事)執行
午前10時30分

令和6年1月

1日(祝) 元旦祭執行 午前10時30分

2日(火) うりわり墓参 午前7時

6日(土) 御本部年賀参拝 新幹線にて

14日(日) 初月例祭執行 午前10時30分

祭典後、信徒会総会・新年会

さわかぜ賛助会員募集

韃教会機関紙「さわかぜ」は、皆様のお祈りとお力添えによりまして、令和5年度は7回の発刊が出来、教会内外のお役に立たせていただいて参りました。皆様からご意見や感想をお寄せいただいで、より立派で楽しい機関紙にお育ていただけますよう宜しくお願いいたします。

さて、今年に引き続き、来年度の賛助会員を募集いたします。今後とも教会機関紙永続発展のため、皆様の絶大なるご協力をお願い申し上げます。

なお、一〇千円で、二〇以上ご協力下さい。

申込はなるべく、12月末日までをお願いいたします。

郵便振替口座番号 00950-3-61515

口座名義 金光教韃教会

教会改装工事報告

教会が御造営されて38年が経過し、昨年は屋根の雨漏りがあり、屋根葺き替え工事を行いました。今年度は玄関及び応接間の天井の壁紙を張替え、玄関の天井のペンキを塗りかえました。(11月6日～9日)



教祖140年
生神金光大神大祭
が奉行されました。
(10月22日)



さわかぜは、韃教会ホームページからもお読みいただけます。



金光教うつぼ教会

検索

<https://utubo.konko.info/>